

## 令和6年度の学校評価

本年度の重点目標	<p>今まで以上に安全で安心な学校づくりを目指す。そのためには、家庭や地域、企業との連携を図りながら推進する。また、生徒や保護者の夢を形づくるなど、3年間の学びを通して、社会から期待される生徒の育成や地域から愛される学校を目指す。</p> <p>(1) 職員は、生徒との好ましい人間関係をつくり、教育活動に取り組む。</p> <p>(2) 基礎・基本を大切にして、スモールステップを踏むなど分かりやすい授業を実践すると共に、生徒の学習意欲を引き出すための授業改善に取り組む。</p> <p>(3) 職員は、自ら指導技術を磨き教育への見識を高めるとともに、品性を磨き、豊かな教養と広い社会的視野をもち、資質能力の向上と授業規律の確立に努める。</p> <p>(4) 基本的な生活習慣の確立を図り、全校生徒が自ら進んであいさつができるように、生徒を主体としたあいさつ運動の支援を行う。</p> <p>(5) 教育活動全般を通して、生徒が思いやりをもち、互いの個性を尊重しつつ周りの生徒と協力して行動できるように、生活指導を推進する。</p> <p>(6) 生徒を地域のイベントに積極的に参加させるなど、より多くの学びの機会を設け、活動を通して達成感や自己有用感などを体得させ、自ら進んで学ぶ姿勢を養う。</p> <p>(7) 工科高校として、時代と地域社会に即した教育の在り方について研究する。</p> <p>(8) 普段の教育活動や行事など生徒の活動の様子について、ホームページなどを積極的に活用し家庭や地域社会に向けた情報発信に努める。</p> <p>(9) 安全衛生委員会などの既存組織を活用し、ワーク・ライフ・バランスに十分配慮し、職場環境を整えていく。さらに業務改善に向けた取組として「業務の見える化」を進め、業務を分担できる協働体制をつくる。</p>		
項目(担当)	重点目標	具体的方策	留意事項
総務部	<ul style="list-style-type: none"> <li>・PTA諸活動を通し、保護者に学校生活を開かれたものにする。</li> <li>・災害時の初動に支障をきたさない対策をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校行事のみならず、各種会議やPTA活動へ参加してもらい、学校で過ごす時間を多くする。</li> <li>・避難経路図やマニュアルの整備をし、より洗練されたものにする。また、それを周知し訓練等の際にも用いる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・メール配信等を利用し、早めかつ返答しやすいような案内をする。</li> <li>・実地調査をするなどして、相違がないよう十分留意する。</li> </ul>
教務部	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新教育課程の実施による本校のカリキュラムの見直しを行う。</li> <li>・入試業務の改変による業務改善を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各教科、学科の意見を集約し、選択科目の再編成などの見直しを進める。</li> <li>・業務の停滞を招かないように、担任や関連分掌と連絡を取り合いながら効率的に進める。</li> <li>・入試制度の改変により、分掌内の業務分担が明確に把握できるようになったことから、校内の入試要項の見直しを行い、選抜委員会を経て、全職員に周知できるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各教科と学科で連携し、情報交換の場を設けて進める。</li> <li>・項目と関連分掌との連携を進め、業務内容を明確にし、分担しながら進める。</li> <li>・昨年度の入試日程および業務日程を参考にし、校内業務への影響を把握する。</li> <li>・考査や成績処理、生徒指導等の平常の学校運営と入試準備・実施を滞りなく行う。</li> </ul>
図書部	<ul style="list-style-type: none"> <li>・図書館の生徒利用や教育活動の推進を図る。</li> <li>・教員の教科指導力向上のための研修を設定する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒図書委員会や職員図書委員会を開催し、さまざまな教育活動を行う。</li> <li>・魅力的な図書館のディスプレイや生徒が読みたいと思う新刊図書を整備する。</li> <li>・授業公開期間を設定し、また保護者授業見学会を開催する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・活気ある生徒図書委員会の活動になるよう、さまざまな取り組みを模索する。</li> <li>・限られた図書購入費の中で、魅力ある新刊図書の購入を行う。</li> <li>・初任者や中堅研該当者は積極的に研究授業を行う。</li> </ul>
生徒指導部	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会のルールやマナーの遵守、規範意識の確立</li> <li>・5分前登校の徹底と交通事故件数の減少</li> <li>・いじめの早期発見と適切な事案対処</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校活動を通して、マナーやモラルを向上させ、社会の一員として自覚を持ち、ルールを遵守させる。</li> <li>・生活習慣を整えさせ、日頃から余裕をもった時間間隔を身に付けさせる。</li> <li>・長期連休明けに交通事故が増えている現状を踏まえ、重点的に早朝立ち番指導や交通安全指導を行う。</li> <li>・いじめの情報収集、事案対処の在り方について検証し、いじめの早期発見に努めるとともに適切な対処を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の規範意識向上に全職員で一丸となって取り組むとともに、地域、家庭との連携を深めていく。</li> <li>・5分前登校の指導や交通安全指導、生活習慣を整えさせる指導を全職員で協力して行う。</li> <li>・「いじめは絶対に許さない」という姿勢で全職員が協力して、いじめ問題に対応する。教職員間や学校と家庭との情報共有を密にし、生徒が安心して学校生活を送れるような環境づくりに努める。</li> </ul>

<p>特活部</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>部活動や学校(生徒会)行事への積極的な参加を促す。</li> <li>福祉、ボランティア活動を通して慈愛の心と社会人基礎力を養う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>3年間の部活動の定着及び活性化を図る。</li> <li>学校行事が生徒主体で行えるように計画し支援する。</li> <li>福祉、ボランティア活動を通して、地域に貢献できる生徒の育成を目指す。</li> <li>あいさつのできる社会人の育成を目指す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>それぞれの生徒にあった部活動の選択をすることができる環境を整える。</li> <li>生徒会役員を中心に生徒の意見を取り入れ、生徒主体の学校行事となるように努める。</li> <li>校内校外を問わず、幅広くボランティアへ参加できるように情報発信する。</li> <li>より多くの生徒にあいさつ運動への参加を積極的に促す。</li> </ul>
<p>進路指導部</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>教育活動全般を通して正しい職業観・勤労観を育み、生徒の進路選択、進路実現の支援に努める。</li> <li>選科の実施に当たり、生徒の将来設計を考えた選択ができるように努める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>担任を柱として、学科や職員との連携を深め、情報提供および情報交換を密にし、連携をした進路指導を目指す。</li> <li>選科実施の当たり、学年会、学科主任、家庭科主任と協力をして分かりやすい資料作成や情報提供を実施し、選科作業を進め、選科の年間計画を確立させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>職員に対して事業所見学や企業説明会を通して、進路指導に生かせる情報を得られる機会を設定する。</li> <li>Teamsを使用した情報共有を進めるとともに求人情報を見やすくできるように検討する。</li> <li>選科について、情報発信と面談時間を確保して、学科の特色とともにキャリア教育の一環として進める。</li> </ul>
<p>保健厚生部</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>基本的な生活習慣を確立させ、心身の健康を保ち自主的な健康管理が行えるようにする。</li> <li>安全で清潔な環境整備に努め、学校全体で取り組む体制を整える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>個別、集団の保健指導を実施し、健康に対する意識の向上を図る。</li> <li>教員、保護者、関係機関が連携して生徒を支える体制を確立する。</li> <li>ヒヤリハット、安全点検、救急法の研修を生徒、教員が真摯に取り組む。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>新入生の保護者からの「学校支援シート」や健康カード、中学校情報をまとめ、教員が共有できるようにする。</li> <li>必要に応じて個別の健康相談を実施する。</li> <li>現職研修として救急法と緊急時シミュレーション訓練を実施する。</li> </ul>
<p>工務部</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>資格取得、競技会を通して、生徒の学ぶ力と意欲向上を図り、その成果を学校外へ情報公開をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学年会と連携し、資格取得を促す。学科と連携して指導を行い、合格率の向上を図る。</li> <li>情報化推進委員によるホームページ更新を進める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学科と連携して、ジュニアマイスター顕彰受賞を目指す生徒の増加を図る。</li> <li>ホームページ更新の講習を行う。</li> <li>I C T支援員を活用して、情報発信の方法について検討する。</li> </ul>
<p>機械科</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>時代と地域社会に即した学習の在り方と持続的な教育技能について研究する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>各実習ショップにおける危険リスクを掲載したテキストに改編する。また、指導者マニュアルを作成し、作業の標準化と作業安全の共有を図る。</li> <li>企業見学や、地域イベントへの参加を積極的に行い、企業からの要望や地域の声を集約し、授業や実習テーマについてキャリア教育の最適化を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>定期的な安全点検の実施により、新たな危険リスクの発見に努める。</li> <li>生徒参加を促し、機械科について地域や近隣の中学生への理解を図る。</li> </ul>
<p>電子工学科</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>新しい安全指導の実践</li> <li>専門分野への学び力の向上を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>大幅な見直しを加えた実習系のテキストを活用して、KYTの実践や、教員の共通認識による基本的な安全指導の徹底、生徒の技量や興味・関心を捉えた作業手順や指導方法を実践する。</li> <li>事業所見学や外部講師などを活用し、自己の進路実現に向けた学習意識を向上させ、資格取得に向けた提案やサポートを見直す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>各作業において安全指導・安全作業に努める。</li> <li>生徒目線のヒヤリハットの情報共有と改善を進めるとともに、新たな危険の発見に努める。</li> <li>高校3年間で計画的に資格取得を行えるように、学年に合わせた提案・受験啓発を行う。</li> </ul>

<p>建築デザイン科</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>安全作業を定着させる。</li> <li>様々な学習や体験を通して勤労観・職業観の形成を促す。</li> <li>大学と連携した教育を行い、学習意欲の向上ともに進路選択の幅を広げる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>事前に実習に伴う危険予知を行い、安全マニュアルを活用する。</li> <li>企業と連携して技能体験会や現場見学会を計画し、生徒の勤労観・職業観の形成を促すキャリア教育を行う。</li> <li>大学や専門学校より講師を招き、講義などを行う出張講義やICT機器を用いた遠隔授業を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>実習にとりかかる前に、生徒に対し、安全上の留意点を具体的かつ十分に説明する。</li> <li>多くの企業と連携を図り、建設業に対する理解とともに興味・関心の向上に繋げる。</li> <li>出前授業や遠隔授業を通して学習意欲の向上を図る。</li> </ul>
<p>環境科学科</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>資格、検定取得の充実</li> <li>実技を伴う授業において、安全教育・安全作業の定着</li> <li>進路の選択実現のため、自ら努力する姿勢を養う</li> <li>校外へのイベント参加など情報発信の充実</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>資格、検定の指導内容の検討、補習の充実をする。</li> <li>危険予知訓練指導の推進と基礎基本に基づいた作業の徹底を行う。</li> <li>職場見学、社会人講師の講話などを通じて、進路考察やキャリア教育を行う。</li> <li>中学校訪問、校外活動などを通じて、校外への情報発信を積極的に行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>2年生の実習で資格、検定取得に取り組む。</li> <li>実習での危険予知トレーニングを充実させ、キャハットを写真付きで掲示し、安全意識を高め、安全作業の共有を実施する。</li> <li>社会人講師による講話を充実し、多くの機会を提供する。</li> <li>環境をイメージできる内容を検討し、情報発信をする。</li> </ul>
<p>3年学年会</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>基本的生活習慣の定着と社会人基礎力の向上</li> <li>進路実現に向けてのキャリア教育の充実</li> <li>リーダーの育成</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>遅刻数の減少など、時間を守り、自己管理ができる生徒を育成する。</li> <li>前に踏み出す力、考え抜く力、チームで働く力など、社会人として必要な能力の向上を図る。</li> <li>進路実現のための自己分析と企業や進学先の研究機会を設ける。</li> <li>部活動や学校行事などに積極的に参加させ、主体的に動ける人材の育成を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>時間を守る、挨拶、身だしなみ、返事、整理整頓などの基本的生活習慣をできるまで粘り強く指導する。</li> <li>部活動や資格取得などで努力を成果に繋げさせ、達成感や自己有用感を高める。</li> <li>進路指導部や学科と連携し、企業や進学先の研究を進め、自己理解を深めさせる。</li> <li>継続的な声掛けや校内外における様々な活動に積極的に参加する雰囲気を作る。</li> </ul>
<p>2年学年会</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>基本的生活習慣の定着</li> <li>進路実現に向けてのキャリア教育の推進</li> <li>リーダーの育成</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>5分前行動を習慣づけ、昨年度より遅刻数を減少させる。また、挨拶や身だしなみについて主体的に行動できる用にアプローチする。</li> <li>自己分析を通して、将来像を考えさせ、進路実現のために何をしたらよいのか、思考を深めさせる。</li> <li>学校の中核を担う学年として、部活動や学校行事などに積極的に参加させ、主体的に動ける人材の育成を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>時間を守る、挨拶、身だしなみなどの基本的生活習慣をできるまで粘り強く指導する。</li> <li>進路指導部や学科と連携し、進路意識を高める活動や声掛けし、進路実現に向けて力を蓄える。</li> <li>部活動や学校行事、資格取得、ボランティア活動に積極的に参加するように意義を伝えるなどの指導にあたる。</li> </ul>
<p>1年学年会</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>基本的生活習慣の確立を図る。</li> <li>高校生としての自覚・目標設定をさせる。</li> <li>自身の進路を考えて選科を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>5分前行動や自ら挨拶することを心掛けさせる。</li> <li>各教科学科と連携を図り、提出物の有無や授業の取り組み状況について共有する。また、健康観察などから気になる生徒には迅速かつ密な連絡を家庭と図る。</li> <li>各学科等と連携を図り、高校生活の中で資格取得や部活動、ボランティア等、目標をもって取り組ませる。</li> <li>進路指導部と連携を図り、就職と進学という進路選択を早期に考えさせ、選科を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>円滑な対人関係を築く為にも挨拶や時間を守ることの重要性を確認させる。</li> <li>課題の遅れなどから学校生活に対して前向きに取り組めなくなる生徒を減らすために、多くの職員が情報共有を図り、生徒を見守っていく。</li> <li>資格取得、部活動やボランティア活動へ積極的に参加するように意義を伝えるなどの指導に当たる。</li> </ul>
<p>学校関係者評価を実施する 主な評価項目</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>スクール・ポリシー「三つの方針」について</li> <li>業務の見える化、業務の精選、業務分担による働き方改革の推進</li> <li>休み方改革を含めた職員のワーク・ライフ・バランスの啓発</li> <li>ICT機器を活用した授業の推進と教育活動等の情報発信</li> </ul>		